

## 新たなつながりを生んだ 地域共同ケア拠点



● 助成年度  
2016～2018年度

● 助成額  
1年目 900万円  
2年目 630万円  
3年目 325万円

● 活動目的

高島市民の暮らしを多様な主体による参加と協働で、まるごとで支え、支え合う関係の基盤をつくるために、分野横断によるアウトリーチ型の総合相談支援と生活支援機能を有するキャラバン隊を結成。また集落と旧村町域を結ぶ「小学校区域」における地域共同ケア拠点の形成を図る。



高島まるごとキャラバン隊による地域のふれあいイベントに参加

地域共同ケアの考え方を共有することで、拠点での住民の主体的な取り組みと関係機関との協働につながっていきました。



### 住民が主体的に運営する 地域共同ケア拠点

助成金がブースターの役割を担い事業を推進できました。特に助成金で整備した赤い羽根キッチンカーによる軽食の提供を通して、地域に出向いた移動相談拠点の機能を持たせたことで、地域での福祉活動のシンボルにもなりました。

3カ所の地域共同ケア拠点では、どのような活動が行われているのでしょうか。

「拠点の1つ、朽木地区に設けた寄り合い処「ぐくつつき」では、サロン、保健師による健康相談、生協商品の共同購入ステーション、生協の組合員が集う食事会などを行っています。若い母親、子供も多く参加し、幅広い世代が交流するきっかけになりました」

拠点をプラットフォームとすることで、関わりがなかった生協や地元のお店等とも、連携・協働することができるようになりました。ひき

赤い羽根福祉基金の助成を受けて「地域生活支援のための住民と協働した多職種連携と地域共同ケア拠点形成事業」を行った背景には、2009年から空き家改修小規模多機能拠点の運営を開始し、見守りネットワーク活動を立ち上げるなど、地域福祉の推進に取り組んできた経緯がありました。

「これまで、自治会ごとに見守りネットワークの立ち上げを進めてきました。2014年には、「地域共同ケア拠点のある地域づくり」をめざして、中学校区単位と自治会単位の取り組

みをつなぎあわせる小学校区をターゲットに地域共同ケア拠点と総合相談支援の仕組みをつくることを計画しました」と、高島市社会福祉協議会の杉島隆さんは説明します。

事業の大きな柱は次の2つです。

①住民が主体的に取り組む、空き家を活用した地域共同ケア拠点の構築

②多様な専門職による「総合相談支援機能」と食や物販を通じた「生活支援機能」を併せもつ「高島まるごとキャラバン隊」が行うアウトリーチ

## 住民の身近な場所で 地域福祉に取り組む

事業を実施することで、住民主体の活動拠点の運営、関係機関との連携、多くの団体の参加と協働の場の広がりなどが達成されました。助成対象ではなかった住民福祉協議会へも波及効果がでてきて、自立した活動団体としての意識が高まっています。これには、地域共同ケアの考え方が住民、関係団体と共有でき、住民が主体的に拠点運営できたことが大きいと感じています。

地域ケア共同拠点は、週1回程度の活動にとどまっていますが、いずれは常設化して、ボランティアの集いの場とする等の展開も考えています。拠点が無い地域でも同様の取り組みが推進されるように、広げていきたいです。

一方で、計画どおりに目標を達成できなかった部分もありました。キャラバン隊はイベントに出向くことが中心となって地域生活に密着した機能が果たせなかったり、小学校区での活動は、中学校区単位と自治会単位との“面のつなぎ合わせ”までには至らなかったりしたことです。これらの課題もふまえながら、今後も、地域福祉の推進に取り組み、住民の身近な場所での活動を活性化していきたいです。



高島市社会福祉協議会  
地域福祉課 課長 杉島隆さん

### 助成プログラム 評価会議委員コメント

小学校区において福祉関係者だけでなく異業種の巻き込み、地域の方が来るのを待つのではなく出向いて相談を受けとめるという取り組みは興味深いものです。小学校区で実施した意味を、よかった点、悪かった点も含めて言語化し、ほかの市町村の参考になるようにする工夫が必要で、キッチンカーの戦略的な活用の効果も示していただくとよかったです。

地域に出向くツールとするなど、活用の仕方や仕組みづくりも必要ですが、空き家を活用した拠点運営モデルとキッチンカーの活用は、新しいアクションとなるよう息の長い取り組みになることを期待しています。



朽木拠点での保健師との協働

こもり当事者と家族の会との連携、こども食堂等に取り組んでいる拠点もあります。杉島さん

は「拠点を置くことで住民の主体的な取り組みが活性化され、他地域への波及効果も大きい」と強調します。

### 高島まるごとキャラバン隊による 総合相談支援

高島まるごとキャラバン隊は、赤い羽根キッチンカーとともに介護事業所や集落を訪問したり、こども食堂や地域のふれあいイベントに参加したりし、住民の相談に応じました。

また、台風21号で大きな被害に遭った市内の山間過疎集落に、支援チーム、住民福祉協議会、市役所、老人クラブ、社協職員が訪れ、キッチンカーとともに集落をまわりました。

「この事業での取り組みをきっかけに、地域共生社会の実現に向けた官民および多機関協働の機運が高まったと感じます。高島市が取り組む『高島市地域生活つむぎあいプロジェクト』と連携し、包括的な相談支援の取り組みを進めたいと考えます」と、杉島さんは意気込みを語ります。

空き家を改修した拠点形成のプロセスにおいて、住民福祉協議会の活動が活性化されたことを受け、この取り組みを6カ所の中学校区全域に波及させていくことで、住民相互の助け合いや支え合いにつながっていきます。

※住民福祉協議会とは高島市内の中学校区ごとに設置されています。個人・団体にかかわらず「自分のまちを誰もが住みやすいまちにしていこう」という志のもと、多様な分野・立場の人たちが集まったネットワーク型の組織です。